

2025 vs 2026 知財情報フェアに見る「意匠」実務の変遷

検索ツールの進化：AIは「紹介」から「実用」へ

AI画像検索が展示の主役に



2025年の講演紹介から、2026年は「DesignVision」等の具体的製品展示へと進化しました。

評価軸が「国数」から「品質」へ



収録国数だけでなく、検索結果の再現性や業務への接続性が重視されています。

専門家調査とAIの併存



AIによる効率化と、専門家による登録可能性の判断を組み合わせる重要性が明示されました。

2025年

2026年

主要な検索ツールの展示状況の変化

クラリベイト (DesignVision)	 2025年 (講演での紹介に留まる)	 2026年 (製品として明示的に展示・発表)
Fovea / Patsnap / Markify	 2025年 (AI検索の基本機能を紹介)	 2026年 (利用場面やデータ連携を具体化)
EUIPO (欧州連合知的 財産庁)	 2025年 (展示・講演の確認なし)	 2026年 (AI活用と意匠制度改革を公式発表)

検索ツールの進化：AIは「紹介」から「実用」へ

AI画像検索が展示の主役に



2025年の講演紹介から、2026年は「DesignVision」等の具体的製品展示へと進化しました。

評価軸が「国数」から「品質」へ



収録国数だけでなく、検索結果の再現性や業務への接続性が重視されています。

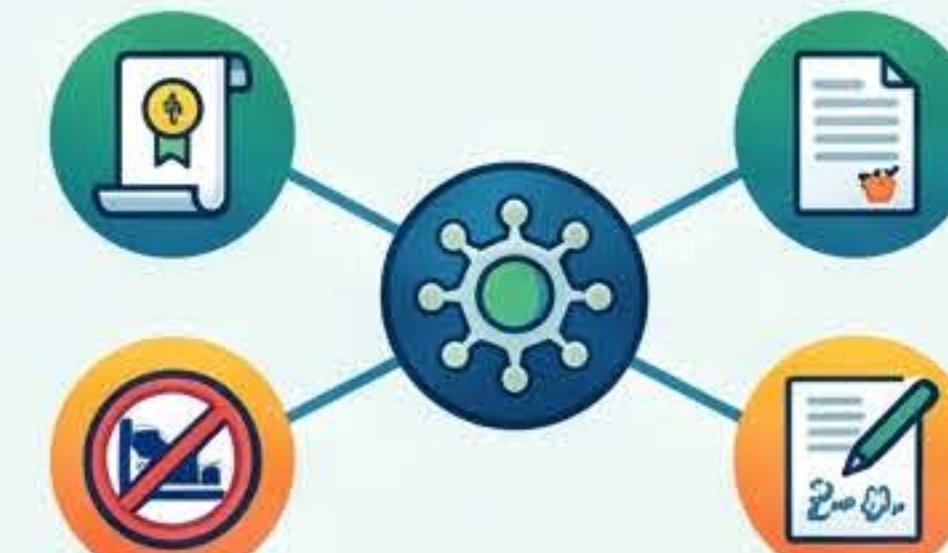
制度改革と管理：実務環境の大きな変化

EUIPOによる意匠制度改革



2026年はAI活用と意匠制度改革の発表があり、制度面での大きな転換期となりました。

知財管理の統合化が進展



意匠を単独でなく、特許や契約、模倣品対策と一元管理する製品が具体化しました。

デザイン経営の定着



知財とデザインを横断する戦略は、一過性の流行ではなく継続的な経営テーマとなっています。